

情報公開文書

研究の名称	化学療法副作用に対し冷えを目標とした漢方治療を行った卵巢癌患者の後方視的検討
研究代表機関	富山大学附属病院
研究責任者 （所属・職名および氏名）	富山大学 学術研究部医学系 産科婦人科学講座 教授 中島 彰俊
①試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>この研究は富山大学臨床・疫学研究等に関する倫理審査委員会の承認および研究機関の長の許可を受けて実施しています。</p> <p>【研究の目的・方法】 進行卵巢癌・腹膜癌は化学療法が長期化することで副作用が増悪し、治療継続困難となるだけでなく患者のQOL (Quality of life) が悪化することもある。当院産婦人科では癌患者の化学療法副作用や体調不良に対して十全大補湯、補中益気湯、大建中湯、芍薬甘草湯、六君子湯、人参養栄湯などをエキス剤で処方している。これらの処方によっても改善がみられない場合に当院和漢診療科に紹介し、煎じ薬を含めた漢方治療を導入している。</p> <p>化学療法の長期化に伴う倦怠感、食思不振、および冷えにより増悪する諸症状に対して漢方治療を行った症例について後方視的に検討し、その背景や有効例における処方の特徴について明らかにすることを目的とする。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2027年3月31日</p> <p>【研究対象者】 2021年4月から2025年9月にかけて当院産婦人科から和漢診療科に紹介された、化学療法施行歴のある卵巢癌・腹膜癌患者</p> <p>【研究資金、利益相反の状況】 開示すべき利益相反はありません</p> <p>【個人情報の取扱い】 情報を取得した後は、氏名、診療録ID等の個人の識別が可能な記述は用いず、個人とは無関係な研究用識別番号を付すことで他の情報と照合しなければ個人を識別できないように加工を行います。加工された情報はパスワードによりアクセス権限が制限されたネットワークに接続されていないパーソナルコンピュータで産科婦人科医局内において管理します。本研究では研究用識別番号と診療録IDとの対応表を作成し、パスワードによりアクセス権限が制限されたパーソナルコンピュータで産科婦人科医局内において、加工されたデータとは別に保管します。</p> <p>【研究結果の公表の方法】</p>

	<p>日本産科婦人科学会で発表します。</p> <p>【試料・情報の他機関への提供有無】 なし</p> <p>【外国にある者への提供について】 該当なし</p>
②利用又は提供する試料・情報の項目	<p>【試料・情報の項目】 年齢、身長、体重、BMI、進行病期、化学療法サイクル数、漢方医学的診断（証）、処方漢方薬の種類</p>
③利用又は提供を開始する予定日	<p>【利用又は提供を開始する予定日】 実施許可日</p>
④試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	富山大学附属病院 病院長 山本 善裕
⑤提供する試料・情報の取得の方法	電子カルテデータより収集します
⑥利用する者の範囲	富山大学 学術研究部医学系 産科婦人科学教室 教授 中島 彰俊
⑦試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	富山大学附属病院 病院長 山本 善裕
⑧研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨	<p>研究対象者に関する試料・情報を当該研究に用いること（他の研究機関への提供も含む。）に対して、拒否をご希望される場合や研究資料（研究計画書及び研究の方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲で入手・閲覧を希望される場合は、以下の窓口へご連絡ください。</p> <p>電話番号：076-434-7357 FAX：076-434-5036 E-mail：manika18@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：富山大学附属病院産科婦人科 荒木左諭</p>